

平成24年行政事業レビューシート

(文部科学省)

事業名		スーパーサイエンスハイスクール		担当部局庁	初等中等教育局		作成責任者		
事業開始・終了(予定)年度		平成14年度		担当課室	教育課程課		教育課程課長 塩見みつ枝		
会計区分		一般会計		施策名	Ⅶ-1 科学技術関係人材の育成及び科学技術に関する国民意識の醸成				
根拠法令 (具体的な条項も記載)		-		関係する計画、通知等	教育振興基本計画(平成20年7月1日 閣議決定) 科学技術基本計画(第4期)(平成23年8月19日 閣議決定)				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)		将来の国際的な科学技術関係人材を育成するため、先進的な理数教育を実施する高等学校を「スーパーサイエンスハイスクール」(SSH)として指定し、学習指導要領によらないカリキュラムの開発・実践や課題研究の推進、観察・実験等を通じた体験的・問題解決的な学習等を支援する事業の円滑且つ効果的な実施に必要な検討等を行う。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)		スーパーサイエンスハイスクール企画評価会議や研究開発協議会の開催、中間評価の実施等を実施する。							
実施方法		<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他							
予算額・執行額 (単位:百万円)				21年度	22年度	23年度	24年度	25年度要求	
		予算 の 状 況	当初予算	2	2	1.4	4.6	3.9	
			補正予算	0	0	0	0		
			繰越し等	0	0	0	0		
			計	2	2	1.4	4.6	3.9	
			執行額	1	1	0.9			
	執行率(%)	62.8%	66.1%	64.3%					
成果目標及び成果実績 (アウトカム)		成果指標			単位	21年度	22年度	23年度	目標値 (年度)
		成果目標:SSH事業の円滑且つ効果的な実施 成果指標:SSH事業説明会の新規希望参加校数		成果実績	校	77	81	118	80
				達成度	%	96.3	101.3	147.5	
活動指標及び活動実績 (アウトプット)		活動指標			単位	21年度	22年度	23年度	24年度活動見込
		SSH企画評価会議等開催数		活動実績	回	11	16 (5)	18 (5)	— (9)
		SSH事業説明会開催数		(当初見込み)	回	1	1 (1)	1 (1)	— (1)
単位当たりコスト		47,712 (円/回)		算出根拠	執行額/(会議等開催回数) =907(千円)/(18回+1回) =47,712 (円/回)				
平成24・25年度予算内訳	費目	24年度当初予算	25年度要求	主な増減理由					
	諸謝金	1.1百万円	0.8百万円	会議等開催回数の減					
	職員旅費	0.8百万円	0.9百万円	事業内容の見直し					
	委員等旅費	2.4百万円	1.9百万円	会議等開催回数の減					
	庁費	0.3百万円	0.3百万円						
	計	4.6百万円	3.9百万円						

事業所管部局による点検			
	評価	項目	評価に関する説明
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	当事業は、新成長戦略の工程表、科学技術基本計画においてその必要性が明記されるなど、政策として優先度が極めて高い事業である。不用率が大きくなっている理由は、事務的経費の効率的で適正な執行に努めた結果である。
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業となっていないか。	
	○	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、使途・費目	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	業務の実施に当たっては、庁費の執行状況を見直すなど、無駄の徹底した削減に努めている。
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	—	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	当該事業は新成長戦略の工程表、科学技術基本計画に基づき、実施しており、中間評価を行うなど、着実な実施に努めている。
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	—	類似の事業があるか。その場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。 ※類似事業名とその所管部局・府省名	
	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	<p>事業の実施に関して、事前に開催時期・回数等の検討を行い、関係規定に基づき、証拠書類等を確認し、会議出席者への謝金・旅費等を支出している。</p> <p>これまでも単価等の見直しを行い予算の効率化を図ってきたところであるが、今後もこれまで同様、事務的経費の効率的で適正な執行に努めるとともに、今後、事業量の増加も見込まれることから、必要な経費について精査に努める。</p> <p>なお、不要が多いことについては、事業目的に即し真に必要なものに限定し、庁費の支出の削減を図った結果、執行率を抑えることが出来たためである。</p> <p>執行率の状況を踏まえ、平成24年度より各費目の予算額の見直しが行われている。</p>		
予算監視・効率化チームの所見			
一部改善	<p>事業評価の観点：この事業は、科学技術・理科、数学教育の重点化を図るため、スーパーサイエンスハイスクール企画評価会議や研究開発協議会の開催、中間評価・事後評価等を実施する事業であり、予算執行の観点から検証を行った。</p> <p>2. 所見：この事業は、平成23年度決算において不用額が生じていることから、不用額が生じたより詳細な要因を分析した上で、予算執行の実績を適切に概算要求に反映すべきである。</p>		
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
縮減	<p>この事業は将来の科学技術系人材の育成を行うために、今後の引き続き実施が必要な事業である。24年度予算においては事業内容の見直しを行うなど、予算の見直しを行った。25年度要求においても引き続き事業内容の精査に努めるとともに、企画評価会議の事務費の積算を見直したこと等により、概算要求に▲710千円反映した。</p>		
補記（過去に事業仕分け・提言型政策仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載）			
<p>○教育振興基本計画(平成20年7月1日) http://www.mext.go.jp/a_menu/keikaku/080701/002.pdf</p> <p>○科学技術基本計画(第4期)(平成23年8月19日閣議決定) http://www.mext.go.jp/component/a_menu/science/detail/_icsFiles/afidfile/2011/08/19/1293746_02.pdf</p>			
関連する過去のレビューシートの事業番号			
平成22年行政事業レビュー	0198	平成23年行政事業レビュー	0131

A. 文部科学省
0.9百万円

諸謝金
職員旅費
委員等旅費
庁費

0.1百万円 }
0.1百万円 } を含む
0.3百万円 }
0.4百万円 }

（スーパーサイエンスハイスクール企画評価会議
やSSH生徒研究発表会の開催、中間評価の実
施等を実施。）

資金の流れ
（資金の受け
取り先が何を
行っているか
について補足
する）（単
位：百万円）

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごとに最大の
 金額が支出されている者について
 記載する。費目と使途の双方
 で実情が分かるように記載)

A.			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
B.			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

B.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					